

# 大須病院 2025 プラン

令和 3 年 1 0 月 策定

【大須病院の基本情報】

- (1) 医療機関名：大須病院
- (2) 開設主体：医療法人桂名会
- (3) 所在地：愛知県名古屋市中区松原 2 - 1 7 - 5
- (4) 許可病床数：150床  
(病床の種別) 一般150床  
(病床機能別) 急性期44床、回復期106床
- (5) 稼働病床数：同上
- (6) 診療科目：  
内科、循環器内科、脳神経内科、小児科、外科、消化器外科、  
リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、  
整形外科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科
- (7) その他：総合健診センター
- (8) 職員数： 222名
- ・ 医師 68名 (常勤11名、非常勤57名)
  - ・ 看護職員 81名 (看護師72名、准看護師4名)
  - ・ 看護補助者 14名
  - ・ 薬剤師 5名
  - ・ 臨床検査技師 11名
  - ・ 放射線技師 7名
  - ・ P T、O T、S T 20名
  - ・ 管理栄養士 2名
  - ・ 社会福祉士 3名
  - ・ 臨床工学技士 1名
  - ・ 事務職員 10名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

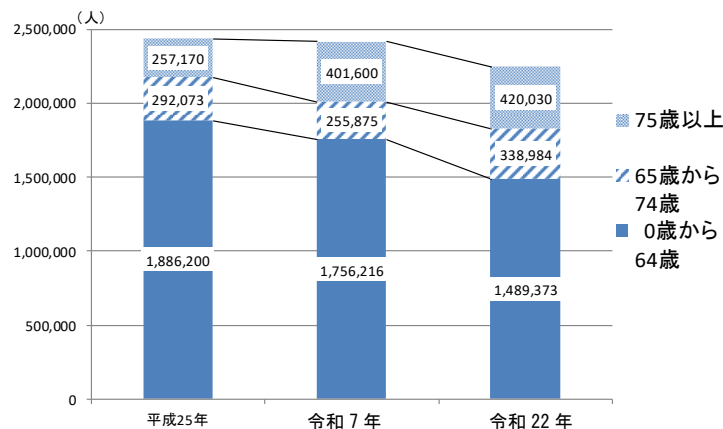
- 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移>

※ ( ) は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

<名古屋・尾張中部構想区域>



(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成 28 年 3 月現在、圏域内（18 病院）において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料（ICU）・新生児特定集中治療室管理料（NICU）・総合周産期特定集中治療室管理料（MFICU）・ハイケアユニット入院医療管理料（HCU）・新生児治療回復室入院医療管理料（GCU）の届出がされています。
- 平成 25 年度（2013 年度）NDB データに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料（SCU）については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は 0% であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積 (km <sup>2</sup> )	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は 9 割程度と非常に高い水準にあります。また、他の 2 次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

<平成 25 年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325
		88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743	
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人／日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

- ・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
- ・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が10(人／日)未満となる数値は公表しないこととされており、「\*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

<平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人／日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162	
	20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人／日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289	
	41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

## ② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

## ③ 自施設の現状

### ○基本理念

私たちは、ご利用してくださる方、ひとり、ひとりの笑顔のために、最善をつくすことが誇りです。

### ○基本方針

1. 主役は患者さん
  - ・患者さんの権利とプライバシーを尊重した医療を行います。
  - ・患者さんに十分な説明をし、納得される医療を行います。
  - ・患者さんに心のこもった対応をし、癒し、安らぎのある医療を行います。
2. 安心して受けられる医療
  - ・新しい知識、技術の習得に励み、高度で良質な医療に努めます。
  - ・安全で信頼される医療を提供するため、院内感染、医療事故防止に努めます。
3. 地域社会への貢献
  - ・医療を通して、地域社会の一員として貢献できるように努めます。
  - ・地域の中核病院として、他の医療、介護、福祉施設との連携を積極的に進めていきます。

### ○診療実績（令和2年4月～令和3年3月）

- ・入院基本料：急性期一般入院基本料4  
地域包括ケア病棟入院料2（令和3年8月現在、入院料4）  
回復期リハビリテーション入院料4
- ・平均在院日数：急性期一般11.7日、地域包括ケア31.0日、回復期リハ52.6日
- ・病床稼働率：急性期一般43.1%、地域包括ケア53.3%、回復期リハ55.3%
- ・入院延患者数：27,447人（月平均2,287人、1日平均75.2人）
- ・外来延患者数：68,340人（月平均5,695人、1日平均281.2人）
- ・紹介患者数：2,464人（月平均205人）

### ○職員数：256名（令和3年8月1日現在）

- ・医師 77名（常勤18名、非常勤59名）
- ・看護職員 96名（看護師92名、准看護師4名）
- ・介護福祉士 3名
- ・看護補助者 14名
- ・薬剤師 7名
- ・臨床検査技師 11名
- ・放射線技師 9名
- ・PT、OT、ST 22名
- ・管理栄養士 3名
- ・社会福祉士 3名
- ・臨床工学技士 1名
- ・事務職員 10名

○自施設の特徴（4機能）

・急性期機能

急性期機能として、急性期一般入院基本料届出病床44床を有している。

- ・回復期機能として、回復期リハビリテーション病棟入院料届出病床55床、地域包括ケア病棟入院料届出病床51床を有している。

○自施設の担う政策医療

- ・脳卒中 : 脳神経内科医師、脳神経外科医師（非常勤）を配置し、外来診療および入院診療を行っている。

さらに回復期機能を強化し、回復期リハビリテーション病棟において脳血管疾患等リハビリテーションを実施している。

- ・心血管疾患 : 循環器内科医師を配置し、外来及び入院診療を行っている。

今後、急性期病棟における心大血管疾患リハビリテーションの実施を計画している。

- ・がん : 外科医師により、消化器がん、乳がんを主として、検診から手術、手術後のフォローまで行っている。

また緩和治療医により緩和治療を実施している。

- ・糖尿病 : 内科医師と糖尿病療養指導士、管理栄養士がチームとなり、食事療法、運動療法を体験できる教育入院等を行っている。

- ・救急医療 : 救急告示病院および二次救急医療体制における病院群輪番制参加病院として位置づけられており、内科、外科の二次救急を担当している。

○他機関との連携

- ・名古屋市医師会病診連携システム協力病院として、名古屋市医師会会員の診療所等と連携している。

- ・名古屋市立大学病院との間で、脳卒中地域連携パスを活用している。また、同大学の城南脳卒中協議会幹事病院として、協議会に参加している。

- ・名古屋医療センターとの間で、脳卒中および大腿骨頸部骨折の地域連携パスを活用している。

④ 自施設の課題

- 名古屋市中区の地域包括ケアシステムの中において、地域住民および地域のかかりつけ医、介護施設等から依頼される緊急対応を担う連携先病院としての機能とともに、高度急性期、急性期医療を担う病院の後方支援機能を充実させ、地域住民の健康と安心に貢献する。

- 名古屋市中区における急性期医療の機能を維持しながら、一方で、名古屋医療圏におけるポストアキュートにおいて質の高いリハビリテーションを安定的に提供する機能をさらに強化することが当院の課題と考える。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 二次救急輪番病院として、地域住民および地域のかかりつけ医、介護施設等から依頼される緊急対応を担う機能は残しつつ、高度急性期、急性期医療を担う病院の後方支援のための回復期機能を強化する。特に、回復期リハビリテーション病棟を活用し、ポストアキュートにおける質の高いリハビリテーションの提供に努める。
- 地域社会の高齢化、単身世帯の増加を考慮し、訪問サービスを含む在宅医療における役割も担っていく。

② 今後持つべき病床機能

- 地域のかかりつけ医および介護施設等から依頼される緊急対応を担うため、一般急性期病棟を維持、充実させる。
- 高度急性期、急性期医療を担う病院の後方支援のための回復期機能を強化するため、回復期病棟を維持、充実させ、特に名古屋圏域のポストアキュートにおけるリハビリテーションの安定的提供に貢献する。

③ その他見直すべき点

- 一般急性期病棟、回復期病棟とも病床稼働を高めることにより、名古屋圏域および中区の医療需要に十分応え、地域住民の健康と安心に貢献する。
- 医療需要の動向と愛知県地域保健医療計画および地域医療構想に示される方向性を踏まえ、急性期と回復期、さらには在宅医療支援機能を加えた病床比率の最適化を検討する。



### 【3. 具体的な計画】

#### ① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和3年10月現在)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	44床		44床
回復期	106床		106床
慢性期			
(合計)	150床		150床

#### ② 診療科の見直しについて

予定なし。

#### ③ その他の数値目標について

##### 医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 : 90% (令和2年度実績50.1%)
- ・ 紹介率 : 50% (令和2年度実績40.3%)
- ・ 逆紹介率 : 30% (令和2年度実績27.3%)

##### 経営に関する項目\*

- ・ 人件費率 : 55%未満
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用 (職員研修費等) の割合 : 0.35%

以上